

グラバー 図譜

『日本西部及南部魚類』解説・山口敦子（水産学部教授）

Fishes of Southern & Western Japan

Yamaguchi Atsuko

プロフィール

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。2000年長崎大学水産学部准教授。2010年7月から現職。博士（農学）。専門は魚類学、水産資源学。主な著書に「干潟の海に生きる魚たち―有明海の豊かさの危機―」（東海大学出版会）、「海藻を食べる魚たち」（成山堂書店）などがある。



ブダイ
Calotomus japonicus

●画家：中村三郎（左）、小田紫星（下）



雄と雌の違いに新事実

ブダイ科魚類といえば、熱帯のサンゴ礁域を思い浮かべるでしょうか。日本産32種のブダイ科魚類のうち、ブダイは唯一温帯域にも適応した種類で、日本の本州中部から西部太平洋とインド洋にかけて広く分布します。

長崎沿岸のブダイは最高8歳、全長48cmに達します。大きなブダイのほとんどは雄で、その体色は青や緑などカラフルで変化に富んでいます。夏の産卵期になると縄張りを作り、その大きく美しい体で雌に求愛します。雄とは対照的に、雌の方は小型で地味な赤褐色です。海の中には性転換する生物が少なくありませんが、ブダイの場合、全てが雌として生まれ、その後、一部の雌が雄への性転換を経験することが私たちの研究で初めてわかりました。

グラバー図譜では、青色と赤色の2尾のブダイがそれぞれ雄、雌として描かれています。かねてから青が雄、赤が雌、というのが定説でした。しかし詳しく調べてみると、地味な赤色ブダイの中にも雄が含まれていることがわかりました。小型の雄は、雌に擬態しながら大型雄の注意をそらして密かにペアに割り込むことで、自らの子孫を残している可能性が出てきたのです。グラバー図譜で描かれた赤色のブダイも、実際は雄であったのかもしれませんが。

容姿にちなんだ複数の名称

ブダイという名前の由来には、体中を大きな鱗にがっちり覆われた様子がまるで鎧を着



長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

日本西部及南部魚類【グラバー図譜】

<http://oldphoto.lib.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>

た武士のように見えることから「武鯛」、鯛のようでも鯛ではないことから「部鯛」、鯛よりも格好が悪いことから「不鯛」、ひらひら舞うように泳ぐ姿から「舞鯛」など、諸説あります。分類学的に見れば、ブダイはタイではなくベラに近い魚です。

ブダイ科魚類は共通して「オウム」の嘴くちばしに似た歯を備えています。そのため、この魚類は英語で parrot fish (オウム魚) と呼ばれます。そうしたなか、ブダイの場合、他の仲間とは少し違った特徴があります。小さな歯が寄り集まって基部のみが癒合しており、口から不揃いの歯がはみ出しているのです。かみ合わせの悪そうな歯を見せて泳いでいる姿は、何とも愛嬌があるのですが、その口元の様子がまるで怒っているように見えることから、ブダイのことを「エガミ(イガミ)」と呼んでいる地域もあります。また、海藻を食べることにちなんだ「モハミ」、沖縄での「アカエラブチャー」、そして長崎では「オオガン」というように、ブダイには数多くの地方名があります。

ブダイは、長崎を含む日本中部以南の定置網や刺網などで漁獲されています。一部地域を除き、経済的価値の高い魚ではありませんが、歯応えのある上品な白身で、揚げ物にしても鍋にしても美味です。冬になると海藻を食べることが知られており、ハバノリなどの海藻を餌に行われるブダイの浮き釣りは、冬の風物詩となっています。

※ハバノリ：日本各地の磯で見られる海藻。冬から春にかけて採取され、古くから食用とされる。